

(再開 午後1時10分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

5番、山浦登議員。

(「はい、議長。5番。」の声あり)

(5番 山浦 登 議員 登壇)

1. 道の駅ファームス再整備計画について

5番 山浦 登 議員

それでは、発言通告に基づき4点にわたって質問いたします。

まず1点目は、道の駅ファームス再整備計画について。

この質問に関しては何人かの議員により質問され、答弁が行われていますので、重複する部分が多いと思われるのですが、村民から託された質問であり、計画に対する視点の異なる質問もありますので、丁寧な答弁をお願いいたします。

昨年12月、道の駅ファームス再整備計画について一般質問を行いました。その内容は、「事業を進めるうえでしっかり意見を聞き、住民合意を得ながら進められたいとの予算決算常任委員会の審査意見をどのように実行されるのか」というもので、「意見を聴取する場を設ける、住民意見を募ることを計画している」との答弁がありました。

この3月26日、2会場で説明会が開かれ、延べ60名が出席。その後のパブリックコメントでは26名、84件の意見が寄せられたとの報告が過日開催された議会全員協議会でありました。

この結果を受けて、計画の実施を判断されるわけではありますが、出された意見に関して3点質問いたします。

まず1点目、説明会の参加者60人、パブリックコメントの提出者26人、意見の提出数84件は、村民の意見を十分把握できたと考えますか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

パブリックコメント等を通じて十分把握できたかということではありますが、その辺の評価は難しい部分もあると思っております。

ただ、道の駅、それからまた再整備計画について反対のご意見とか、それからまた、不安、懸念を抱えている皆様のご意見、お考えについてはある程度把握できたと考えております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

ただ今の村長答弁では「反対の意見は把握できた」という答弁でありますけども、賛成の意見は出なかったということですか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

賛成の意見もありましたが、先ほどの答弁でも申し上げましたが、検討委員会の際にはいろいろなご意見いただいているわけです。そういう意見を踏まえると、賛成というか、ぜひ進めてほしいという皆さんの声もあるんじゃないかと思っておりますが、その辺については、またこれから皆さんの声を聞く場面が必要かなと思っております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

説明会参加者数 60 人は村民全体の約 1.5%、パブリックコメントの提示者数 26 人は約 0.65%、パブリックコメント提出数 84 件は約 2.1%です。この参加者数、参加率でしっかり意見を聞いた、住民合意を得たということにはならないと考えますが、考え方を伺います。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

お寄せいただいた色々なご意見をお聞きし、お考えを拝見しました。それをもって合意できたというふうには思っておりません。そういうことでよろしくお願ひします。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

非常に村にとっても重要な事業であります。少なくとも3、4割の村民に説明をし、意見を聞かない限り、予算決算常任委員会の意見に対する「意見を聞いた」「合意を得た」ということにはならないと思います。今後、更に説明を求めたいと思っておりますけれども、考え方を伺います。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

その点については、スケジュールを含めて見直しするということですので、その中でどういう形でご意見を伺ったらいいか、また検討させていただきます。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

84件のパブリックコメントの意見が提出されたということですが、この村民から出された貴重な意見、特に賛成・反対の特徴のある意見を2、3点報告いただきたいんですけども。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

いただいたご意見の中での特徴的なご意見ということですが、お一人お一人それぞれの視点でのご意見になりますので、どのご意見を持って特徴的かということは差し控えますが、全協、また村長の答弁で申し上げているとおり、道の駅自体への反対であったり、計画への反対、また計画への不安であったり、疑問を持たれたという意見が一定数あったというふうには感じております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

先ほどの村長への質問と重なりますけれども、私、賛成・反対の両意見の特徴的な意見を述べてほしいということを申し上げましたけれども、今反対の意見だけなんですけれども、賛成の意見、特に特徴的な内容があれば報告いただきたいんですけども。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

賛成の意見もございます。特に、子育て世代の方から子供が遊べるような機能が欲しいであるとか、お米に特化した道の駅にすべきではないかというようなご意見もいただいております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

それでは2点目に入ります。

説明会やパブリックコメントに多くの質問、意見が出されています。この一つ一つの意見に真摯に向き合い、答えていただきたい。平成24年2月の村長の諮問を受け、農の拠点施設整備企画会議が農業を中心とした地域経済の活性化や雇用の確保、農家の生産力の向上などを図ることを目的に、「農の拠点施設整備構想について利活用していく」と答申しました。村はこの答申を受け、平成25年3月に事業基本計画を策定、27年5月にオープンしました。

この農の拠点施設開設準備段階から反対の意見が出され、問題点、疑問点が指摘され、600筆余の反対署名も出されました。この反対意見に対し、村は村民に十分な説明がなされないまま事業がスタートしたわけです。その後10年、当初の目標が十分達成できないまま現在に至っています。

今回の再整備計画に関しても、10年を総括し、6億2,000万円を投入して再整備する価値があるのか、妥当なのか、立地条件や人口減少の中でファームスが計画どおり運営されるのか、目標が達成できるのか、疑問視、不安を訴える意見が多く聞かれます。

これらの疑問、不安を払拭する努力が今必要ではないかと考えます。その努力がなければ、村民の今後の利用、協力が得られないし、事業は進めるべきではないと考えますが、考え方を伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日臺正博）

今、これまでの経過をお話いただきましたが、そもそもから反対するご意見はあるということは十分承知をしています。ただ、村とすれば、そこにさかのぼるのではなくて、現に今あるという前提でこれからも整備計画を考えているということでもあります。

反対の理由の中には先ほど申し上げたそもそもの話もありますし、それからまた、費用の面での反対意見、要するに多額の費用をかけすぎではないかという意見もありますし、機能面でこんなものがこういう機能が果たして効果があるのかとか、いろんな意見があります。また、逆に先ほど申し上げたとおり期待されている部分もあります。そのことも含めて、いただいたご意見を全て中に含めることは当然できませんが、それらの意見を踏まえた中で、またスケジュールも含めて計画についても見直しを進めていきたいと思っております。

その中で最大限、皆さんが抱えている不安とか懸念を払拭できるように目指していきたいと思いますが、とりあえずは先ほど申し上げました、たたき台というか、いただいたご意見を財源等も考慮しながら、村の方で計画を立てて、それについてまたご意見をお聞きするという場面をつくりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

前の議員の質問で、村長の答弁では「検討結果、計画の見直し等は、議会または村民に説明をして情報を共有しながら進める」という答弁がありましたので、ちょっと私も質問を用意してきたのと重複しますけれども、あえて申し上げます。

説明会の席上は、私は「更に大勢の村民に説明し意見を聞く必要があるのではないか」との質問をしたところ、村長は「今回だけでなく、今後も説明をしていく」と答弁されました。

その場では再度質問はしませんでしたでしたが、指定管理者選定等事業を進められた段階での説明会では、事業の計画や事業自体に疑義を唱えている人に対して、納得がいく説明とはならないわけです。事業がスタートする前にしっかり村民に説明し、意見を聞くことが重要であり、行政を司る自治体職員、自治体の責任者としては最も基本的な姿勢ではないかと思いますが、考え方を伺います。

情報を共有するという意味は、スタートする前に、また皆さんに諮って実施をするかどうかということ、議会、村民に諮るというふうに理解してよろしいですか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

ちょっと以前のご質問でもお答えしましたが、スケジュールとか建物の形状だけじゃなくて、事業者言ってみれば指定管理の方法をとるかどうかも含めて、事業者についても再検討の中身に入っておりますので、その前の段階で皆さんの意見をお聞きする場面はつくっていきたくて考えております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

議会全員協議会の場で、私は「パブリックコメントの提出者数 26 人の意見を、大きく賛成・反対に分けるとどのくらいの割合か」と質問したところ、村長は「26 人のうち 13 人が反対している」と答弁されました。また、昨日の山崎栄喜議員の質問に対して、産業企画室長も半数の人が反対していると答弁されました。

私は、このファームス再整備計画に関して、村民の関心も高く様々な意見もある中で、50 人ほどの村民の意見を聞きました。

反対する意見が多かったわけでありますが、その中に反対・賛成ひとくくりにはできない 50 人が 50 通りの意見が出されていました。この村民の意見の中の期待と疑問にしっかりと応えることが、村がこれから最初に行くことではないかと思えます。

半数近い人が反対の意思を示している計画をどのように進めようとしているのか。昨日の一般質問の答弁で「計画の見直し」を表明されましたが、今の段階でどのような方向で見直しが行われるか、可能な範囲でお答えいただきたいと思えます。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

内容についてはまだ具体的な話になっていないとお話はさせていただきましたが、比較検討できるような材料を用意しながら、その中でまた多様な意見をお聞きできればと考えております。

具体的にはやめるとか機能を絞るとか、それからまた別のいろんな方法があると思えますが、村とすればやはり本来の目的、賑わいの中で産業振興につながる施設を整備したいという思いはあります。その面で費用対効果とかその辺も大事だろうし、また将来的な展望も含めて村が活性化できるような対応を示しながら、ご意見をお聞きしたいと考えています。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

それでは、3点目の質問をいたします。

説明会で出された意見、パブリックコメントに寄せられた意見や要望はまとめている最中とありますが、意見を大きく4つに分けて考えると、1つ目は道の駅ファームス自体反対、2つ目は再整備計画に賛成、3つ目は再整備計画を修正して進める、4つ目は事業開始時期を延期し、さらに村民に説明し意見を聴取し、村民の合意のもとに進める、この4つの選択肢を現在の段階でどのように考えておられますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

今ご質問ありました、言ってみれば反対、賛成、修正を含めて、これから村の計画、考え方を示させていただきたいと思えますが、開始時期については当初の計画どおりいかないだろうと、やはり皆さんのご理解、同意を得るための時間は必要だろうと思えます。そういう意味では開始時期は遅れると考えるのが、現時点ではそういうことになるのかなと思っております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

村の厳しい財政状況の中で、今「ワイズスペンディング」賢いお金の使い方が問われていると思います。

仮に計画を実施する場合、説明を十分行うのであれば、事業の開始を延期し、村民に説明し要望を聞く。整備費用が高額ということであれば、規模を縮小して実施し、来客数、利用者数、村民の利用状況、経営収支状況を見ながら継続するか、拡大するか、あるいは中止するか、判断するとの案も出されました。国の補助金、過疎債等を受け入れて計画した場合には、途中での中止は難しいと考えられますが、村民一人の方の意見であります。小さく生んで大きく育てるという考え方です。

現在出されている市民の意見を取り入れての一つの案として、一考の余地があると考えますが、この案についてどのようにお考えですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

現時点ではそういう形になるだろうと思っております。今言われたご意見についても、これから検討する中で参考にしていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

この6月議会に計画の方向が示されなければ、議会として9月議会まで検討された計画の是非を判断する機会がないわけです。我々議員の立場としては、村民から負託されている意見・要望がどのように計画に取り入れられるか監視する役割があります。

今後、村民から出された意見、疑問をどのように計画に取り入れ反映させるか、計画の決定、実施する前に、議会の意思を確認する場、機会が持てないか、伺いたいと思っております。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

同じような答えになってしまいますが、本当に多種多様なご意見があります。それを全て取り入れるということは実質的に不可能なわけでありまして。その中で、村として一番良いのはこの方向ではないかというのを示していきたいと、それについてまたご意見を伺うということでありまして。

ご意見をいただいたものをどの程度取り入れるかというのは、その辺も含めてやっていくと、すぐに答えが出るというふうには考えておりません。もうしばらく時間がかかりますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

意見を取り入れて計画の実施、また修正を判断されるわけですがけれども、事業の中止という選択肢もあると考えてよろしいですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

ご意見の中にそういう意見もあるのは確かであります。ただ、村とすれば先ほど申し上げましたとおり、10年前にいろいろ賛成・反対の議論もあって、結果的に今現在の施設があるということを前提に、村にとって何が最善かを考えていきたいということでもあります。最終的に中止ということも当然検討材料になると思いますが、それも含めて、また比較検討できるような内容でお示しできればと考えています。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

2. 冬季の一人暮らし高齢者の生活支援について

5番 山浦 登 議員

それでは、2点目の冬季の一人暮らし高齢者の生活支援について質問いたします。

3月議会で、冬季間の一人暮らし高齢者の生活支援について質問しました。再度、生活支援について2点質問いたします。

まず1点目、「冬季間の共同住宅の提供については実施予定はない」との答弁でありましたが、特に冬季間は負担が多く高齢者には大変厳しく、不安を訴える方が大勢見られます。実施する方向で検討できないかどうか、再度お聞きします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

冬季間の共同住宅の関係でございますが、議員からは前議会でも同様のご質問をいただきました。

そのときに、「施設の確保、スタッフの確保、また利用料の状況等（公平性の観点から）もあり、すぐに対応するのは困難」とお答えをさせていただきました。現状においても同様に考えております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

3月議会で私は質問してその答弁は、ただ今の民生課長の答弁のとおりでありますけれども、その内容は、「飯山市では実証実験として実施、野沢温泉村、栄村では以前から実施している運用実績がある。しかし、どちらの市町村も提供する施設、スタッフの確保、経費や自己負担の関係で大変課題も多く、運営に苦慮している。当村で実施する場合、同様の課題が想定される。村では、冬季間自宅の生活確保のために、除雪と雪下ろし支援の雪害対策救助員等派遣事業に取り組んでいる」との答弁が

ありました。

支援事業の雪害対策救助等派遣事業があれば、冬季でも安心して生活できるという理解だというふうにと考えますが、真冬は家の周りが雪に覆われ、孤独感や不安感にさいなまれて、高齢者の方は心身のサポートが必要としている人が多いと思われます。

私も今年の冬、近所の方の相談に対応しました。一人暮らしの不安は計り知れないものがあると感じました。村へも相談しましたが、具体的支援の制度がなく、自助努力との説明がされました。

村にとっては負担が大きいのと思いますが、冬季間、高齢者が心身ともに安心して過ごせる施設は、村の高齢者対策の重要な事業ではないかと考えます。ぜひ実施の方向で検討する必要があると考えますが、考え方を伺います。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

確かに、今年の冬はかなり豪雪でありまして、一人暮らしでいらっしゃる方には不安があったと思います。それらの方につきましては、村職員、また民生委員さんを始めとして、いろいろ皆さんの状況を聞き取りながら、個々に合った対応をしていかなければいけないと考えているところでございます。

高齢者住宅の関係につきましては、今回ご質問いただいたことに合わせまして、私も野沢温泉、栄村の施設を実際に見に行ってきました。両施設ともかなり立派な施設と申しますか、野沢温泉の方は特養の施設にくっついて立っているような状況でありまして、栄村につきましては、村のデイサービスセンターの2階にあるというようなことでありまして、単独である施設ではないものですから、野沢は専属のスタッフを置くのではなくて、併設する特養のスタッフが夜間の見回り等を行っているという状況でございました。

村でも、先ほど申し上げたとおり同じような部分を提供するということになれば、同じような施設がやはり必要ではないかと考えておりまして、現段階ではちょっと厳しいのではないかと申しております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

本村の冬の一時居住場所として利用の事業の経過は、平成12年に高齢者福祉総合センター（福寿園）が開設され、村の直営事業として自立した高齢者の、特に冬場の一時居住場所として利用が図られました。

その後、運営は社協で対応することになり、しばらくの間は高齢者の居住施設とひなたぼっこの利用の併用が図られました。しかし、居住施設としての利用者とひなたぼっこの利用者との棲み分け、両立が困難になり、高齢者居住施設としての利用が平成27年度を最後に自然に事業が終了した、こういう経緯があります。

必要性はあるわけであり、要望が出されていますので、入居希望者が何人ぐらいいるのか調査をして実情を把握する考えはないか、そのうえで、ぜひまた実施の方向で検討していただきたいと思いますが、調査についてお願いします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

今のところ調査の予定はございませんが、毎年、先ほど議員もおっしゃったとおり、雪害対策の認定の時に、民生委員さんが高齢者の方を回っていただいて、お話をさせていただいている状況でございます。

その中である程度把握はできると思いますけども、先ほど来申し上げたとおり、現状として共同住宅の提供は難しいということなものですから、それ以外の方法の中で、ご自分のお家の中で暮らしていただけるようなサービスを提供するよう、村としては努めていくというふうに考えておりますのでよろしくをお願いします。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

民生委員さんが高齢者のお宅を回っていろいろ質問するわけですが、そういうような、冬の間はぜひ村の施設に入りたいという希望は出されてないということですか。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

すいません。私、詳細までは把握していませんけども、そういう希望があるかどうか、そもそも聞き取りをしているかどうかというのもありますので、私の方にはそういうような報告はいただいております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

それでは2点目質問いたします。

除雪制度について質問するわけでありませけれども、除雪支援事業について、村民の間から利用できる基準が明確でなく、利用しにくいとの不満が出されました。より使いやすい、わかりやすいように制度の見直しを行い、改善する必要があります。実効性のある、喜ばれる制度の利用運営が必要と考えますが、考え方を伺います。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

除雪支援事業について基準が明確でないということのご指摘の質問をいただきました。

村の除雪支援制度は、豪雪対策救助員設置要綱で対象者を老人世帯、母子世帯、傷病障害者世帯等と定められており、毎冬前に民生委員さんの協力を得て、対象者を決定し実施しております。

豪雪だった昨冬では17件の世帯を認定し、事業を実施してまいりました。

なお、対象世帯であっても扶養義務者が北信地域振興局管内に居住するなど、労力により除雪ができると認められる世帯と、扶養義務者が市町村民税所得割課税者の場合、または、申請世帯の構成員を税申告上、扶養している場合は、金銭的援助をいただけるものとして、全体の公平性の観点に考慮しながら事業に取り組んでいます。

基準が明確でない、わかりにくいという部分のご指摘につきましては、今後よりわかりやすい PR に努めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

私はこの質問をするに当たって、今回、村のホームページだとかパンフレットを見たんですけども、この雪害対策救助員派遣事業の制度、これが村で行っているということがどこに書いてあるかちょっと私は見当たらなかったんですけども、これは村のパンフレットなりウェブには載っているんですか。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

村の例規の方では載っていますし、また、ご質問等いただければペーパーでお配り等もしているところがございます。また、先ほど申し上げた、毎年冬前に民生委員さんの方にもペーパーをお配りして事業の周知をお願いしているところがございます。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

例規集に載っているということだけでなく、ウェブサイト載ったり、今回も補助制度だとか支援制度についての村の広報に載っていましたが、そういうところにも載っていないと私はちょっと思ったんですけどね。

限られた人の対象ですので、省略されたのかもしれませんが、高齢者にとっては非常に大事な内容でもありますので、そういう機会にはぜひ漏れ落ちのないように周知をしていただくようお願いしたいと思いますけれども、お願いします。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

今回ご質問をいただいたことにあたり、ちょっと私ウェブの方の確認もしっかりしてきませんでした。よく確認させていただきまして、もし情報がわかりにくいような状況がありましたら、また再度見直してわかりやすい広報等に努めてまいりたいと考えます。よろしくお願いします。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

冬だけでなく一年を通して、ちょっとした日常生活の支援、高齢者に対する支援でありますけれども、これを有償ボランティアが提供するシステムにできないか。こういうような要望が私に寄せられましたけれども、高齢者を支援するという形で日常的に有償でのボランティア制度、ほかでやっている自治体もあるそうなんですけれども、ぜひこの検討をしていただきたいと思いますけれども。

議長（勝山 正）

梅寄民生課長。

民生課長（梅寄伸一）

ボランティアの関係ということでございますけれども、今までの答弁中でお答えしたかちょっと記憶が定かではないですけども、村から社協の方にお願ひし、社協のボランティア事業ありますので、ぜひそちらの方を活用していただけますよう、また村としてもPRをしてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

3. 米不足と米価高騰について

5番 山浦 登 議員

それでは、3点目の米不足と米価高騰について質問いたします。

本村は農業立村であり、米づくりが主要産業であります。令和の米騒動と言われるように、昨年から米不足と米価の高騰が続き、収まりません。米の需要が全国で705万トンに対し、生産が661万トンと40数万トン不足しており、買い溜めとか市場に滞っているということではないと言われております。本村も生産者側、消費者側の双方に関係しているわけでありまして。

そこで今回の米不足と米価高騰について2点伺います。

まず1点目、木島平村農業再生協議会は、令和7年度の米作付け目標・目安を全体の水田面積の65%としています。その後、米不足を考慮し、目標・目安を転換をしていると言われております。

今後、米不足を背景に、農業再生協議会の米作付け目標・目安をどのように変えるのか、米不足と米価高騰の原因をどのように考えていますか。伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

目安値のことだと思いますが、村の方で示している目安値については、現時点で特段変更ということとは考えておりません。ただ、これまで申し上げてきましたとおり、あくまでも目安ということで、それぞれ農家の皆さんには、自分の経営方針に従って作付けをしていただきたいと思いますと考えております。

原因については、ほかの議員の皆さんの質問にもありましたが、やはり生産量の問題か、流通過程の問題か、様々な要因があると思っております。

村の中でも、米農家の皆さんは自家消費以外は、ほとんど手持ちの米がないというような話も聞いています。ですから、生産農家からは既に米は出ているんだらうと、その先についてどうなっているのかというのはなかなか把握ができない部分がありますが、いずれにしても、様々な要因が重なって

今の状況になっているのかなというふうには考えております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

国の米の需要の減少を見込んだ作付け目標・目安の徹底が行われ、今回の米不足、米価の高騰で目標・目安の変更が迫られました。

私は、米不足を招いた背景に、米の需要の減少を理由に減産を自治体や農家に押し付けてきた国の農業政策があると思います。所得価格保障制度を全廃し、米価を市場任せにし、米の生産基盤を弱体化させた農家に減産を押しつけながら、無関税のミニマムアクセス米を20年間、毎年77万トン輸入続けてきた。こうした国の農業政策が今日の米不足、米価の高騰を招いた一因というふうに考えます。

こうした政策を転換し、米を増産し食料自給率を高め、農家が安心して営業できるようにするのが政治の責任であり、国の農業政策を考慮しながら米の作付け目標・目安の設定を行うことが、今、必要ではないかと考えます。考え方を伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

考え方については、やはり最終的に基本的な食糧である米の生産が安定して、そして、米生産農家もしっかりと米を作りながら生計維持できる、経営が維持できる、それが大事だろうと思っております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

米不足解消のためには、米の増産により食料自給率を上げる、米作農家の支援のため米の価格保障、所得補償を行う、米価を市場任せにしないなど、対策と考えられていることがいくつかあります。

村としてどのような支援ができるのか、先ほど関議員の質問に答弁されましたので、重複しますので簡潔に答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

今、盛んに国の方でも米政策についての対応を考えているところですので、多分、政策的にも大きく転換される部分があるんじゃないかというふうに思います。その結果がやはり消費者にとっても生産者にとっても、お互いに良い状況になることを望んでいるわけありますが、村とすれば、やはりうまい米の産地としてしっかりと木島平の米のブランド化を更に高めて、農家所得の向上につながるような支援は、これまで以上に進めていく必要があると思っております。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

4. 早稲田大学地域連携ワークショップについて

5番 山浦 登 議員

それでは、4点目の早稲田大学地域連携ワークショップについて質問いたします。

毎年、早稲田大学地域連携ワークショップ in 木島平の最終提案報告会に出席しています。学生の皆さんが村民と触れ合い、地域を調査し、その調査研究の成果が報告されています。毎年、学生の目線と感覚から木島平のポテンシャルを見いだし、素晴らしい提案がされています。

今回の連携としては、ほかの4大学との連携も行われておりますけれども、2点質問いたします。まず1点目、提案をどのように行政に生かしているのか、お聞きします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

それでは、お答えします。

早稲田大学地域連携ワークショップは、地域が抱える課題を学生ならではの視点で考え、解決方法を提案してもらう事業であり、平成21年度からスタートしました。

平成28年度までは各地区の課題などに取り組んでいただき、それぞれ地区ごとにヒアリングや課題解決に向けた提案をいただきました。

平成29年度からは村全体の課題に取り組んでいただいております。いただいた提案については費用や内容を検討し、事業化が可能なものは実現できるよう取り組んできました。ただし、事業化に至らなくても、多くの学生に木島平村を学びのフィールドとしてもらうことで、関係人口、木島平のファンの増加につながることを期待して行ってきました。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

それでは、次の②ですが、過去に提案を政策に盛り込んで具体的に実施した事例はあるかどうか、お聞きします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

実際に実施した事例はあるかということでございます。

令和4年度のテーマとなった「子育て世帯が住みたい田舎 No.1 になるための施策を考えよう」に対する提案として「ラクラク暮らしツアー」を、令和5年度に試験的に実施しました。

このツアーでは、子育て世帯の移住者向けの体験ツアーを実施し、移住者増につなげようというものでしたが、1回目は参加者が集まらず中止、第2回はツアー形式でなく、参加者に対し事前にオンライン面談を実施した後、希望する体験プログラムを自由に組めるようにサポートするほか、滞在中に利用可能な村産の食材提供や観光施設の利用券を特典として提供する移住体験キャンペーンとして2組7名の参加がありました。

参加者は、いずれも「担当による体験プログラム作成が必要」な段階よりも手前の状態でありまして、参加者自身が欲しい情報のイメージができていなかったということから、事前にオンライン面談を実施し体験プログラムを提案しています。

これらを踏まえ、オンライン面談等を活用して事前の情報提供を充実するとともに、ニーズに合わせた提案をしていくことを担当課において実践しています。

議長（勝山 正）

山浦登議員。

5番 山浦 登 議員

村では早稲田大学以外に東京大学、國學院大學、桐朋学園大学、ものづくり大学と、各大学との連携協定を結んでいます。各大学との連携による事業の成果と言っては問題があるかと思いますが、連携によって村にどのような実績が上がっているのか、その辺り、現段階での状況をお聞かせいただきたい。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

各大学との連携協定を行って、その効果というご質問でございます。

まず早稲田大学につきましては、先ほどもお話しましたように、平成21年度から行っております。卒業した学生の中に、社会人となっても地域と結びついて、村で起業されたケースもございます。その元学生たちが村に何度も訪れて交流をしているといった効果が出てきております。

また、東大ですとか教育関係でございますが、やはり学生のときに村を訪れて教師になったということで、各大学の例えば実習ですとか、そういったことも村で行い始めてきておりますので、そういった効果が出てきているというふうに考えております。

議長（勝山 正）

以上で、山浦登議員の質問は終わります。

(終了 午後1時59分)

議長（勝山 正）

ここで、暫時休憩とします。

再開は、午後2時10分とします。

(休憩 午後1時59分)